

認知症キッズサポーター養成講座 ④城南区 堤小学校



認知症(にんちしょう)について
考えてみよう!

平成27年2月20日

6年生100人が学びました。

「劇団つつみ」のみなさん

多くの場所で認知症の劇をわかりやすく展開しています。



①家の中で・・・

おなかが
すいた

朝ごはんを食べたばかりなのに「おなかがすいた、朝ごはんはまだか」と言うおじいちゃん。「さっき食べたばかりじゃない」と怒る嫁。

近頃、家の中でも家族を困らせることばかり、ストレスがたまる嫁・・・

さあ、あなたならどうしますか？

おじいちゃん、
いやがらせ
ですか？



②店でのトラブル

買い物に来たおばあちゃん。
レジでお金を払おうとしますが、
お金の出し入れがわからず店
員とトラブルに・・・

えーと、ん～・・・
670円って???
どれを出せばいい？



③行ったり来たり(徘徊)

キョロキョロおぼつかない足取りで歩くおばあちゃん。なんだか様子がおかしい。このところ、よく通りで見かけます。そこへ、通りかかった近所の方が思い切って声をかけると...

〇〇さんのおばあちゃんでしょ!

わあー???
いきなり、うしろから驚かさないで!



“僕だったら”“私だったら”どう対応するか？



“僕だったら”“私だったら”どう対応するか？



何度も何度も同じことを言ってるけど、不安なんだと思います。



強い口調；チクチク言葉ではなく、フワフワ言葉を使いたい。

認知症キッズサポーター養成講座を受講して、言いたいこと・・・



アンケートより

認知症の人にたいするせし方をおしえてもらってわかったことは、手をそえながら話しをすることや目のいちをひくすることや、やさしく話しをしたらいいとわかりました。強い口調で言うのではなく、「ちょっとまってね」とか「どうしたの?」とかふわふわ言葉をつかえばいいとわかりました。

認知症を持つ人は、物忘れだけでなく、かん違いをしてしまうことがあり、自分自身も苦しんでいるとわかった。また、認知症にかぎらず、困っていそうな人を見かけたら、自分なりになにかできそうなことを考えて接したいと思っています。劇のおかげで、くわしくしれ良い対処法がわかりました。

認知症の授業をうけて、今までにんちしょうのことはただわすれていくだけだと思っていたけど、最近のことを忘れていくから自分もきおくにない最近のことをいきなり言われるとドキツとして、それがずっと続くとこわいから、認知症の人にはやさしくせしして不安をやわらげたらいいということがわかりました。

ぼくは、認知症の劇や説明を見て、たった一言で相手のとらえ方が変わり、相手が安心してくらししていけるとわかったから、今後そんな人にあったら、やさしく「どうしたんですか?」などと声をかけてあげたいです。やさしく説明してくれたり、楽しいゲームをやってくださりありがとうございました。

私は認知症の方はあまり動けないと思っていました。でも実際は買い物をする事ができるし、食器を洗うことができると知ったので、「認知症の方は何もできない」と決めつけてはいけないことがわかりました。認知症の方は、不安な気持ちで毎日過ごしていることがわかったので、これから認知症の方のお手伝いをしていこうと思いました。

認知症の人には、よりそって話を聞いてあげることが大事だとわかりました。また劇を見る前は言葉だけで「認知症」はどんなことか分かっていなかったけど、分かりやすい劇のおかげで、認知症とはどんなことか、どうしたらいいのかがわかりました。認知症疑似体験では一生けん命考えても、全然予想とちがっていたので、だれでも分かるように話そうと思います。